

神奈川県山梨教会連合会たより

かりん

山梨県布教百三十年

「教師信徒研修会」開催

今年、山梨県に金光教の布教が開始されて百三十年を迎えたことから、記念して「山梨集會」を開催、六月十五日（土）には、甲府教会で山梨県布教百三十年「教師信徒研修会」を、翌十六日（日）には甲府周辺で信徒部主催による「みんなの交流会」が開催された。

当日は、神奈川県、山梨県各地から信者六十五名が甲府教会に集い、研修会のテーマ「このお道の信心のすばらしさを学び、信心する喜びを語ろう」の下に研修会が開催された。また、研修会の間には、子ども達を対象にしたミニ集いを開催した。ここに、山梨県布教百三十年「教師信徒研修会」講話の要旨を報告させて頂く。



講題 「金光教の信心のすばらしさ」
講師 山田信二師

（神奈川県山梨教会連合会長・横浜西教会長）



今日は、お道の信心のすばらしさをみんなで学べるような集會に、という願いがあったので、私が金光教の信心をしていて、どういうふうな喜びを感じているか、金光教の信心はやっぱりすばらしいなど、どういうことを私が思っているか、そのことについて、基になる教祖様の教えを紹介させて頂く。お聞き頂きたいと思う。
（太字はレジュメに記された内容）

一、いつも安心でいられる

*いつも神様の中

「神に会おうと思えば、にわ（土間）の口を外へ出て見よ。空が神、下が神。」（御理解一二）

金光教の神様は、一步外へ出たら空が神様、地面が神様という、実体のある神様で、観念的な神様ではない。私達は天地が神様と教えて頂いているが、神様に会おうと思

わない人には見えない。神様というものはそういうものである。

「目には見えぬが、神の中を分けて通りおるようなものじゃ。畑で肥をかけておろうが、道を歩いておろうが、天地金乃神の広前は世界中であるぞ。」（御理解六）

神様のお徳というものは、見ることでできない。神様のお徳の中に歩いているようなものなのだ、と言われている。畑で肥をかけていても、ということは汚いことをしているともいうことがある。道を歩いていても、仕事をしていても、何をしていても、神様のお広前の中であると。いつも神様の中にいるのだというのが、この道の信心である。だから安心なのである。

*いつでもどこでもお願いできる

「平生は平生でおかげを受けねばならず、まさかの折にはなおのことおかげを受けねばならぬから、どのような時にでも置き場を忘れて探し回ることのないように、信心の心は肌身離さず持つておらぬと、用心が悪いぞ。まさかの時には裸でも田んぼの中でもよい、『金光様、お願いします』と頼めば、すぐにおかげを持つて来てくださる。」

（尋求教語録一七）

信心の心というのは、私達の心にある。その心さえあればおかげが受けられる。神様にお願ひすることができ。ただ私達がいつも持っているはずなのに置き場を忘れ

てしまうことがある。神様をお願いすることを忘れてしまうことがある。それさえ忘れないければ、いつでもどこでもお願いすることができる。

「金光大神は形がのうなったら、来てくれと言う所へ行つてやる。」(御理解一九)

教祖様も段々に年を取られ、体調も悪くなって来られる。教祖様もずっと生きてみんなを助けてあげたいけれども、そういうわけにもいかないと、思われるようになって、教祖様は「大丈夫、形が亡くなったら、どこにでも行つて助けてあげるから、どこからでもお願いしていいのだよ。」と言つて下さった。

それは一つには、教祖様が助けに行きたいという思いがあつて、神様がさせて下さるといふ約束があつて、教祖様はどこへでも来て下さる。だからどこからでもお願いすれば、いいのである。

***お徳を頂いておけば安心**

「徳のないうちは心配する。神徳を受ければ心配はない。」(御理解五四)

信心すると神様がお徳を下さる。そのお徳を頂いておけば、知らないうちに助けて頂ける。それを信じていけば安心なのである。普段信心してお徳を頂いているのだから、必ず神様が守つて下さるといふ安心が持てる。



研修会会場の様子 甲府教会を会場として使わせていただきました

***神様がつきまとつてくださる**

「商売するといふから神は見ている。商売させていたたくといふ心になれば、神はつきまとつてさせてやる。」(天地は語る二八二)

神様がつきまとつて下さつたら有り難い。最近信心はこれだな、と思うことが多い。「させて頂く」といふことは、神様がさせて下さるといふことである。「どうぞ神様させて下さい」と言つてお願いする心になれば、神様がつきまとつてさせて下さるといふことである。

二、自信を持つて生きられる

***神様に愛されている私**

「一生死なない父母に巡り会つたと思つて、何事でも無理と思わないで天地金乃神にすがればよい。」(天地は語る二二九)

私達は、一生死なない父母に巡り会つてゐる。ある方が、子供の時に両親を亡くして、頼る親がない中で育つて行かれ、自分の力で一生懸命生きて来た方が、金光教の教会に参つたら、「天は父、地は母ですよ」と言われた。

「自分には親はいないと思つていたけれども、まだ親がいてくれたか」と言つて、それから神様に縋つて生きて行くといふ生き方ができるようになった、という話を聞いたことがある。親なる神様に助けて頂ける、これは本当に有り難いことである。

***神様だけはわかつてくださる**

「人が盗人じゃと言つても、乞食じゃと言つても、腹を立ててはならぬ。盗人をしてやらねばよし。乞食じゃと言つても、もらいに行かねば乞食ではなし。神がよく見ておる。しつかり信心の帯をせよ。」(御理解五八)

人から悪口を言われたり、誤解されたり、分かつてもらえないことがある。その時に腹が立ったり、落ち込んだりする。教祖様は、「神様だけは見て下さっているからな。」と、「泥棒だと言われたつて、泥棒をしていなければいいじゃないか、神様は分かつて

いるんだから、堂々としていなさい。」と言われる。

「しっかりと信心の帯をせよ。」ということとは、神様が見て下さっているということをしつかり腹入れしろよ、と。神様相手の人生をちゃんと送って行けよ、と。それができさえすれば、ということである。

***世間の価値観から自由になる**

「金の杖をつけば曲がる。竹や木は折れる。神を杖につけば楽じゃ。」(御理解五七)

金や竹や木の杖は、何かの拍子に曲がったり、折れたりして何の頼りにもならなくなることがある。だから気をつけなさいよ、と。神様だけは裏切らない。人間は裏切ることがある。お金の値打ちは暴落することがある。家は地震で壊れることがある。だけど神様だけは裏切りもなされないうし、壊れもなされないう。神様を頼りにする生き方ができたら、自信を持って、胸を張って世の中の価値に惑わされないうで、生きて行くことができる。

三、喜びが増えていく

***心の眼を開く**

「真の道をゆく人は肉眼を置いて心眼を開けよ。」(神訓)

肉眼とは今見ている眼、物を見るための眼である。心眼、心の眼とは何かというところ、目に見えないものを見る眼である。目に見

えないもの、神様のお働き、神様の愛情、そして見落としている喜び、そういうものを見る眼を開きなさいよ、ということである。

***今を喜ぶ**

「氏子らは、情けない、つらいことだと先を案じずに、今日もありがとうございます。今日もありがとうございますと思ひ、神様のおかげで雨にも遭わず、露にも遭わず、ひもじい目も寒い目もせず、ありがたいことと喜べ。」(II 柏原とく七)

教祖様は、ちゃんと眼を開いてよく見なさいよ、神様のおかげで雨にも遭わず、露にも遭わず、ひもじい目もしない、寒い目にも遭わない、そのことを有り難いことだ、と言って喜ばなさいよ、と言われている。

このこと、実は凄いいことなのだと思う、改めてこの教えを見た。みな、ひもじくない、雨露をしのげることを喜んでいない。当たり前前と思いがちだが、実はそれは当たり前ではなく、神様のおかげでということ。これが喜べたら、これ以上のことが見えてきて、更に喜べることになっていく。

(次号に続く 報告 南清孝)

☆研修会中、子どものミニ集い開催☆

会場の甲府教会の一室をお借りして、子どもが集まって集会をしました。乳児1名、小学生2名、中学生1名が参加してくれました。

最初にダンボールと紙コップで作った大きなジェンガで遊びました。自己紹介の時は、スタップも含めて初対面同士でギクシヤクしていました。ジェンガで作戦を練ったり倒して騒いだりしているうちに、打ち解け始めたように感じました。

その後、自前の駒や手作りで簡単に出来るエアカーリングを作って遊びました。最後に、自分達で作る巨大人生ゲームで遊びました。マスの内容をそれぞれ考えて作るのですが、一人一つずつ、今年の神様に感謝する嬉しい出来事も書いてもらいました。それぞれ大変に盛り上がりつつありました。乗ってくれた子ども達にも感謝です。



エアカーリング作成中

令和6年度「みんなの交流会」実施報告

藤沢教会 高橋義吉

令和6年6月16日に、甲府にて神奈川山梨教会連合会信徒部主催の「みんなの交流会」を実施しました。

前日の甲府教会での「教師信徒研修会」に参加して、クア・アランド・ホテル石和健康ランドに泊まられた30名に加えて、乗用車の運転並びに参加された甲府のご信徒15名の合計45名が集いました。

初めに山口信徒部長の挨拶があった後、9台の乗用車を連ねて本坊酒造マルス山梨ワイナリーに到着。工場見学をした後、さあ試飲です。

試飲樽が6個ずらりと並び

- ① 甲州オランジュ 白やや辛口
- ② 牧丘甲州 白やや甘口
- ③ 笛吹マスカット・ベリーA 赤辛口
- ④ 夏のワイン 季節限定マスカット・ライチ甘口
- ⑤ 甲州スイートセレクション 白甘口
- ⑥ ぶどうジュース ノンアルコール

試飲コップは小さいですが自分で注いで何度でも好きなだけ飲みました。

こういう酒蔵が横浜にもあったら毎日通うのに…と、後ろ髪を引かれる思いで次の山梨県立美術館に移動しました。

美術館では、世界的に有名なミレーの絵画が多数常設展示されていて、鑑賞することができました。

「種をまく人」や「落穂拾い」は、大地を讃えるようで本教に通じるように思われました。美術館の向かいには文学館もありまして、地元の文豪である樋口一葉、太宰治、芥川龍之介など、山梨ゆかりの文学者の原稿、書簡、愛用品等が展示されていました。

最後に、おいしいワインを堪能し、美術と文学にふれて教養を高められたことを甲府教会の牧野先生とご信徒の皆様にご感謝して、一本締めにて散会いたしました。



記念の集合写真…なのですが、横向いてしまっていますね、右の方で何かあったのかな？

◇つばやき◇

最近私の好きな歌手が出した新曲で、亡くなったお父さんの事を歌詞にしているのですが、「(神様に死なないように祈ったのに)神様なんていないってことが決定した冬」という歌詞がありました。

歌手が当時高校生で、きつとダメなのはわかりつつ、どんな神様でもいいから、と心の中で祈ったのでしよう。そしてその甲斐なくお父さんは亡くなられた。

信心していてもしてなくても、こういう事は起きてきます。信心しているのに、金光教に尽くしているのに、どうして理不尽な事がおきるのか、願いが叶わないのか、教師ながら時々腹を立てています。

これは勝手な解釈になりますが、神様も人間の願いが全て叶えられるなら、そもそもこんな不平等に生物を作らないと思うのです。神様も不幸を感じる人間をみて悲しんでおられるのかもしれない。

起きてくる事をどう受け取り、どう感謝して生きるか、時に腹立てつつも取り組んでいきたいと思うこの頃です。(N)

編集後記

巻頭の【インタビューシリーズ】ですが諸事情により今号はありません。次号に予定しております、お楽しみに！